

玉中(本館落成)

校舎改築の大事業は昭和8年、池田京治校長が創立30周年事業の一環として業を起こすを決意した。直ちに改築期成同盟を結成し、県当局に強力な陳情運動を繰り返した。県の財政難に加えて、数校も改築を要望しており、なかなか予算は計上されなかった。翌9年度になって県は、10年度予算として五万六千円余りの予算を計上した。しかし、起債に基づくものだったため認可が遅れ、工事の着手までは進まなかった。もし、そのまま進んで木造改築程度で行われていたら、永久に白亜の殿堂は建設されなかったであろう。



右の絵画は本館の設計者近藤良馬氏のご子息から寄贈されたもの。図書館に展示中。
(百周年記念祝賀会の席上で寄贈された。作者は不明)

10年5月母校出身の隈部孝校長が着任し、万難を排して邁進すべきだと改築協議会に鉄筋改築十七万八千九百円案を力説し、陳情を続けた。玉名郡下の世論も加勢したが、予算の壁は厚く、追加予算は困難であった。かくなる上は、同窓一丸となって奮起邁進するしかないと同窓会地方委員会を召集、「一致団結シテ改築ノ実現ヲ期ス」と決議された。建築予算としては、県予算五万六千四百九十円、地元負担五万二千元、総額十五万四千八十円として募金が始まった。同窓生は1人平均十円、父兄負担は毎月四十銭が五カ年継続した。隈部校長の東奔西走が続き、郡内各地区同窓会、町村当局訪問の他に、東京はおろか遠く満州朝鮮にまで資金集めに歩いた。

こうして昭和12年5月14日、落成式を迎えた。落成記念に次の行事が行われた。

14日 式典(校庭)、祝賀大饗宴(大講堂)、生徒祝賀大会食(式場跡)、同窓会(立願寺紅葉館)、旗行列(高瀬弥富)、

写真展・洋画展・郷土資料展(3日間)

15日 県下中等学校武道大会(道場)

16日 大運動会(郡下小学校参加)、少年武道大会(道場)、提灯行列

(「玉名高校七十年史」による)



前庭と図書館



落成式典 来賓・同窓生等1600名、職員生徒900名
参加



記念式典



祝賀行進